

～自分の心と体を守るために～

グループ討議 30分

## 【学習のねらい】

大人の子どもへの接し方を、会話文を通して考え合い、一人の人格ある人間として子どもの人権について考え合う。

## 【進め方】

- (1) 会話文-1を配り、日頃の子どもへの接し方を語り合う。
- (2) 会話文-2を配り、会話文-1との違いについて語り合う。また、その後の一郎と母の会話を考え合い、言葉を入れる。
- (3) 各グループで話し合われた内容を意見交換する。
- (4) 学習をとおして、気づいたこと、考えたこと等をふりかえり確認し合う。

## 【参考】

### どんな子どもに育てたいですか？

学級PTA懇談会も終了し、机を授業ができる形に戻しながら、先生も交え雑談していたとき「どんな子どもに育てたいか」が話題となりました。

私は、「人に迷惑をかけない子、人のいやがることをしない子になってほしいなあ」と話しました。次の人が「いじめられる側になることがあっても、いじめは絶対しない子」と話し、その後も同じような言葉が続き、まわりの人も同調する言葉を発したり、うなずいたりしていました。

いつもあまり発言しないNさんが「私は…、私は、人が喜ぶようなことをする子どもに育ててほしい」と、言葉を発しました。この瞬間、私は、はっと息を飲み机を動かす手が止まりました。まわりの人も同じように手が止まりました。ほんの2・3秒だったと思いますが、片づけていた数人は静まりかえっていました。

その後、堰を切ったように話が弾みました。それは、私たちが子どもに対して、悪いことをすることを前提として「しない子」になるように言い続けていないか。その言葉を自分が言われたら素直に「はい」と受け入れる気持ちになるか。子どもを、人格ある一人の人間として認めているのだろうか。そして「○○をしない子」ではなく、「□□する子」という言葉で子どもに接していきたいと、時間のたつのを忘れて話し合いました。

薄暗くなった教室で「今日は最後まで残って、得しちゃったね」「そうだね」と心地よさを胸に、帰ってからの子どもへの接し方を考えながら、家路への足を急がせました。

(同和教育つうしん 第24号 より)

会話文-1

一郎：「お母さん、公園に遊びに行ってくるね。」

母：「日が短いから、明るいうちに帰ってきなさいよ。」

一郎：「うん、4時には帰ってくるね。」

(5時をすぎて薄暗くなってから、一郎が家に駆け込んできて)

一郎：「お母さん、怖かったよ。道で変なおじさんが声をかけてきて…」

母：「だから言ったじゃない。早く帰ってきなさいって、あなはいつもそうなんだから。… (次々にまくし立てるように) …」

一郎：「 」

母：「 」

会話文-2

一郎：「お母さん、公園に遊びに行ってくるね。」

母：「日が短いから、明るいうちに帰ってきなさいよ。」

一郎：「うん、4時には帰ってくるね。」

(5時をすぎて薄暗くなってから、一郎が家に駆け込んできて)

一郎：「お母さん、怖かったよ。道で変なおじさんが声をかけてきて…」

母：「そう、怖かったんだね (抱きしめる)」

一郎：「お母さんごめん。4時に帰るって言ったのに約束破って。」

母：「 」

一郎：「 」